



第3回Happy Oceansサミット

「ふくしまをアップデートしよう!」

何が安全で、何が危険なのか？現在のふくしまの状況をアップデートする講演会。
福島県沖で採集した魚を目の前でさばいて放射性物質量を測定する「調べラボ」も同時開催します。



2019.

3月30日土

13:00～16:30

会場 アクアマリンふくしま 1F:マリンシアター

同時開催 15:40～^た調べラボ(放射線測定実演)&試験操業の魚の試食会 (1F:レストラン及びシアター前広場)

講 演

- 「福島第一海からの眺め」…………… 米国ウッズホール海洋研究所上席研究員 **ケン・ブッセラー**
※日本語字幕
- 「福島県内河川水における放射性セシウム濃度の時系列変動」… 金沢大学環日本海域環境研究センター センター長・教授 **長尾 誠也**
- 「淡水魚類に取り込まれた放射性物質」………… 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所
内水面研究センター グループ長 **山本 祥一郎**
- 「第一原発周辺海域に生息する海産魚類の放射性Cs濃度」… 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所
海洋・生態系研究センター放射能調査グループ **重信 裕弥**

参 加 料 無料(別途アクアマリンふくしまの入館料が必要)



た 調べラボ

～ふくしまの魚を食べてみよう～

アクアマリンふくしまでは月に一度「調(た)べラボ～ふくしまの魚を食べてみよう～」を開催しています。福島県で漁獲される魚を目の前で捌いて、放射性物質量を測定することによって、現在の福島沿岸の魚介類の安全性を理解していただけイベントです。また、アクアマリンふくしまで6年間行ってきた海洋放射能調査の結果についてパネル展示も行っています。

主催:公益財団法人 ふくしま海洋科学館



環境水族館

アクアマリンふくしま

福島県いわき市小名浜字辰巳町50 Tel.0246-73-2525(年中無休) www.aquamarine.or.jp

アクアマリンふくしまの入館料 一般1,800円・小・高校生900円・未就学児 無料

開館時間 9:00～17:30(入館は閉館の1時間前まで)



●公益財団法人ふくしま海洋科学館 理事長 安部 義幸 ●ふくしま海洋科学館●展示業●動物取扱責任者／平治隆●登録番号／福島県18い保展示第3号●登録年月日／平成18年11月30日●登録の有効期限の末日／平成33年11月29日

第3回 Happy Oceansサミット「ふくしまをアップデートしよう!」

アクアマリンふくしまは、2011年に東日本大震災によって引き起こされた東京電力福島第一原子力発電所の事故後、アクアマリン環境研究所を設立し福島県における放射能汚染について様々な研究機関とともに調査し情報を発信してきました。しかし、震災から8年が経ち、事故の記憶が風化するとともに、放射能に対する意識の固定化が顕著になってきています。

「ふくしま」を安全だと感じる人、危険だと感じる人、様々な思いがあると思いますが、現在でも測定され続いている数値を見て判断している方々はもう少ないといます。過去に見た数値だけで安全なのか危険なのかを判断してしまい、ふくしまに対するイメージが固定化されてしまっています。

そこで、今回のHappy Oceansサミットでは、アクアマリンふくしまと共同で福島県内の放射能調査を行っている研究機関の専門家の方々に研究成果を報告していただき、いま一度、科学的にデータを見直す機会にしてもらおうと思います。山、川、海、そしてそこに生息する生き物たちを通して、何が安全で、何が危険なのか? 現在のふくしまの状況をアップデートしていただければ幸いです。

また、2017年度まで定期開催を行っていた「調べラボ!～ふくしまの魚を食べてみよう～」を同時開催します。福島県沖で採集した魚を目の前でさばいて測定します。試験操業で獲られた魚の試食会も行います。

プログラム

13:00 開幕

開催の挨拶

13:10 ウッズホール海洋研究所 Ken Buesseler…「福島第一海からの眺め」

14:00 金沢大学 長尾 誠也…「福島県内河川水における放射性セシウム濃度の時系列変動」

14:30 中央水産研究所 山本 祥一郎…「淡水魚類に取り込まれた放射性物質」

15:00 中央水産研究所 重信 裕弥…「第一原発周辺海域に生息する海産魚類の放射性Cs濃度」

15:30 閉幕

15:40 調べラボ(放射能測定実演) 試験操業の魚の試食会

16:30 終了

演者紹介



米国ウッズホール海洋研究所上席研究員
Ken Buesseler
ケン・ブッセラー

専門は海洋における自然および人為起源放射性物質研究。今までの研究には、大気圈内核実験による大気から海洋への放射性降下物、 Chernobyl事故の黒海への影響アセスメント、福島第一原発事故による太平洋への放射性物質汚染等がある。2014年よりふくしま海洋科学館と四倉海岸の土壤及び地下水の調査を行っている。



金沢大学環日本海域環境研究センター
センター長・教授
長尾 誠也

専門は地球科学・環境放射化学。河川、湖沼、沿岸域などの水環境における物質動態に関する研究を行う。2011年7月より、ふくしま海洋科学館と夏井川・鮫川等において福島原発事故により放出された放射性セシウム濃度の測定、時系列変動調査中。2011年5月から阿武隈川・新田川の調査を実施。海上技術安全研究所とは福島沿岸域の堆積物調査も実施中。



国立研究開発法人 水産研究・教育機構
中央水産研究所
内水面研究センター グループ長
山本 祥一郎

専門は淡水魚類の生態・資源、集団遺伝学。震災後は、各地の研究機関と共同して、内水面の放射能問題に取り組んでいる。関連する著書として、「福島第一原発事故による海と魚の放射能汚染、成山堂書店(分担執筆)」



国立研究開発法人 水産研究・教育機構
中央水産研究所
海洋・生態系研究センター放射能調査
グループ
重信 裕弥

専門は魚類の生態学。震災後は福島周辺海域の海産生物について、魚の生態学の観点から放射性セシウムがどのように取り込まれ、今後どのように推移していくのか調査・研究を行っている。2014年よりふくしま海洋科学館と海水魚の放射性物質の移行調査を行っている。

た 調べラボ

～ふくしまの魚を食べてみよう～
福島県沖で採集した魚を目の前でさばき、
放射性物質量を測定します。



試験操業の魚の試食会

カナガシラ、マガレイなど福島県沖で漁獲される
白身魚のフリッター(予定)
※試食は講演会聴講者優先